



堺化学工業株式会社

堺化学工業株式会社

2021年3月期中間決算説明会

2020年11月25日

イベント概要

[企業名]	堺化学工業株式会社
[企業 ID]	4078
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2021 年 3 月期中間決算説明会
[決算期]	2020 年度 第 2 四半期
[日程]	2020 年 11 月 25 日
[ページ数]	27
[時間]	15:30 – 16:14 (合計：44 分、登壇：26 分、質疑応答：18 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	2 名 代表取締役社長 矢部 正昭 (以下、矢部) 常務取締役 I R 担当 経営戦略本部長 中西 敦也 (以下、中西)

登壇

司会：定刻となりました。本日はお忙しい中、堺化学工業株式会社、2021年3月期中間決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。ただ今より、説明会を開催いたします。

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場での開催ではなく、ウェブ上でのライブ形式とさせていただきました。

本日の予定でございますが、初めにIR担当を務める常務取締役の中西より2021年3月期中間決算の概要、その後、代表取締役社長の矢部より2021年3月期の業績予想についてご説明申し上げます。最後に、質疑応答の時間を設けております。

それでは、中西常務、お願いいたします。

2021年3月期中間業績概要（対前年同期）

金額単位：百万円

	2020.3 2Q		2021.3 2Q		増 減	
		売上高比		売上高比		
売上高	43,995	100.0%	40,244	100.0%	▲ 3,750	▲ 8.5%
営業利益	1,848	4.2%	1,597	4.0%	▲ 251	▲ 13.6%
経常利益	1,905	4.3%	1,219	3.0%	▲ 686	▲ 36.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,110	2.5%	558	1.4%	▲ 552	▲ 49.8%

◆ 売上高

有機化学品および衛生材料は堅調に推移したものの、酸化チタン・亜鉛製品、樹脂添加剤を中心に低調に推移し、減収となった。

◆ 営業利益

設備投資を行ってきた電子材料において減価償却負担の増加をカバーできず、また固定費上昇により、減益となった。

※営業外費用として、操業休止費用442百万円を計上しています。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

5

中西：中西でございます。よろしくお願いいたします。まず、私から2021年3月期、連結ベースでの中間業績の概要をご説明申し上げます。

まず、売上高でございます。402億4,400万、前年同期比37億5,000万の減収、マイナス8.5%。営業利益は15億9,700万円、2億5,100万の減益、マイナス13.6%。経常利益は12億1,900万、6億8,600万の減益、マイナス36.0%。親会社株式に帰属する四半期純利益は、5億5,800万円、5億5,200万の減益、マイナス49.8%。

売上高は、有機化学品および衛生材料は堅調に推移したものの、酸化チタン・亜鉛製品、樹脂添加剤を中心に低調に推移し、減収となりました。営業利益でございますが、設備投資を行ってきた電子材料において減価償却負担の増加をカバーできず、また固定費の上昇により減益となっております。

少し注釈でございますが、今期は営業外費用として操業休止費用4億4,200万円を計上しております。従いまして、前年同期との比較では経常利益を見ていただくのが実態に近いと考えております。

事業別売上高・営業利益

金額単位：百万円

		2020.3 2Q	2021.3 2Q	増 減	
化学事業	売上高	39,393	36,299	▲ 3,093	▲7.9%
	営業利益	2,461	2,290	▲ 170	▲6.9%
医療事業	売上高	4,602	3,945	▲ 657	▲14.3%
	営業利益	464	242	▲ 221	▲47.7%
全社費用	売上高	—	—	—	—
	本社部門費	▲ 1,077	▲ 936	—	—
合計	売上高	43,995	40,244	▲ 3,750	▲8.5%
	営業利益	1,848	1,597	▲ 251	▲13.6%



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

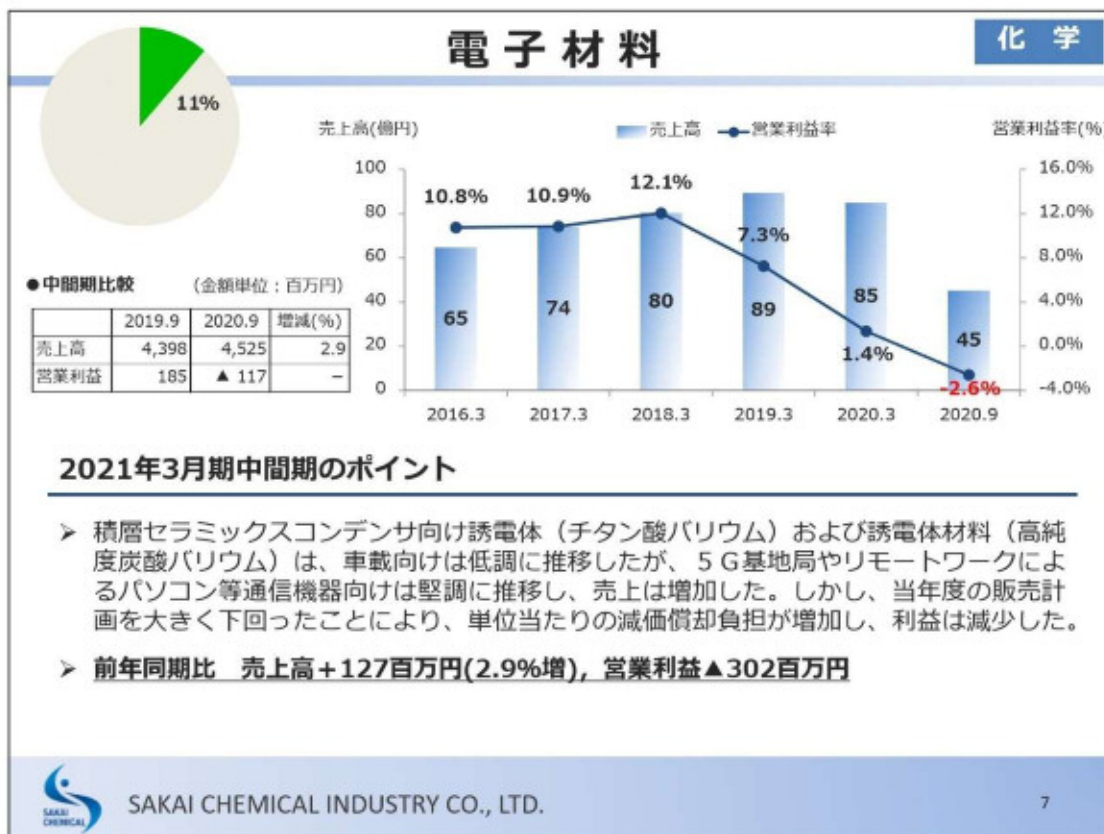
6

次に、事業部門別の売上、営業利益をご説明いたします。私どもは大きく化学事業、医療事業、それから、全社費用という分け方を従来どおりしております。

まず、化学事業でございます。売上高は362億9,900万。前年同期と比べまして、30億9,300万円の減収、マイナス7.9%。営業利益でございますが、22億9,000万。1億7,000万の減益、マイナス6.9%。

医療事業でございますが、売上高は39億4,500万、前年同期比6億5,700万の減収、マイナス14.3%。営業利益は2億4,200万、マイナス2億2,100万減収、マイナス47.7%。

全社費用として、9億3,600万を計上しております。こちらは前年同期と比べまして、減少しております。合計欄は先ほど説明しました数字と同じでございますので、割愛させていただきます。

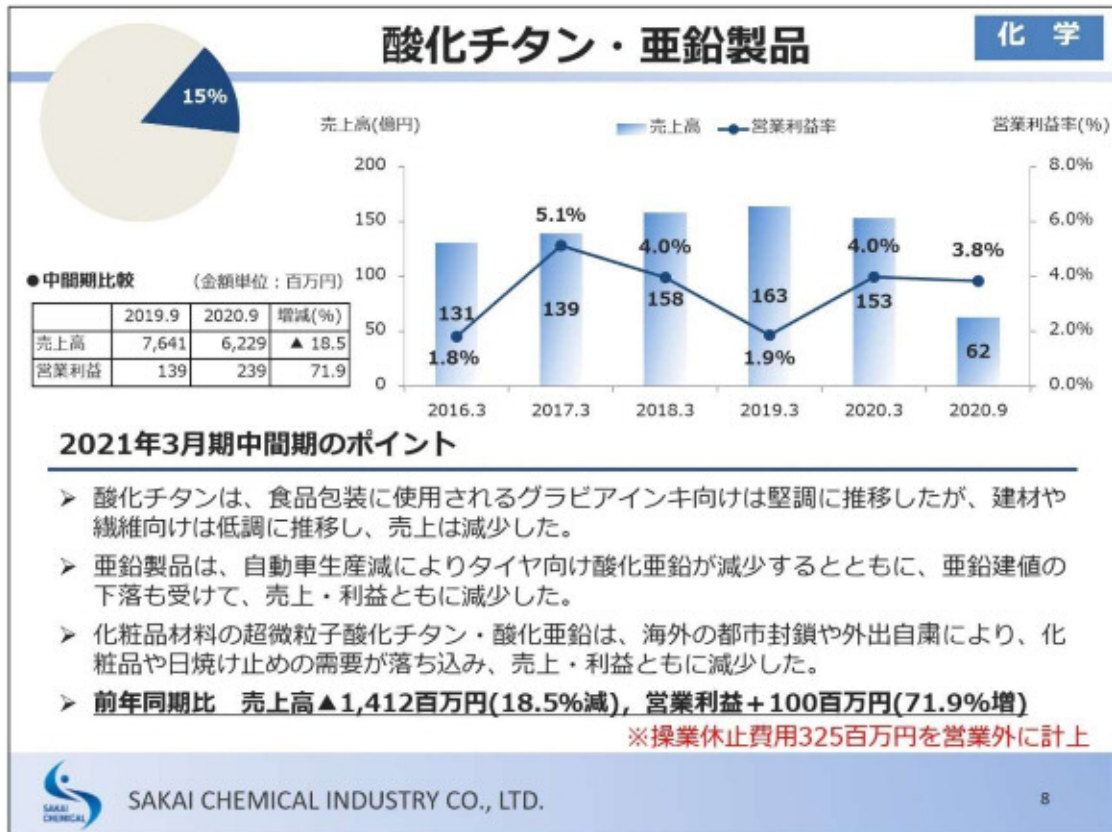


続きまして、化学事業のサブセグメントからご説明申し上げます。まず、電子材料でございます。

中間期のポイントに書いていますとおり、積層セラミックスコンデンサ向け誘電体（チタン酸バリウム）および誘電体材料（高純度炭酸バリウム）は、車載向けは低調に推移いたしましたが、5G基地局やリモートワークによるパソコン等通信機器向けは堅調に推移しました。結果的に売上は増加いたしました。

しかし、当年度の販売計画を大きく下回ったことにより、単位当たりの減価償却負担が増加し、利益は減少いたしました。残念ながら営業赤字になってございます。

前年同期比では、売上高は1億2,700万の増収、営業利益は3億200万の減益となっております。



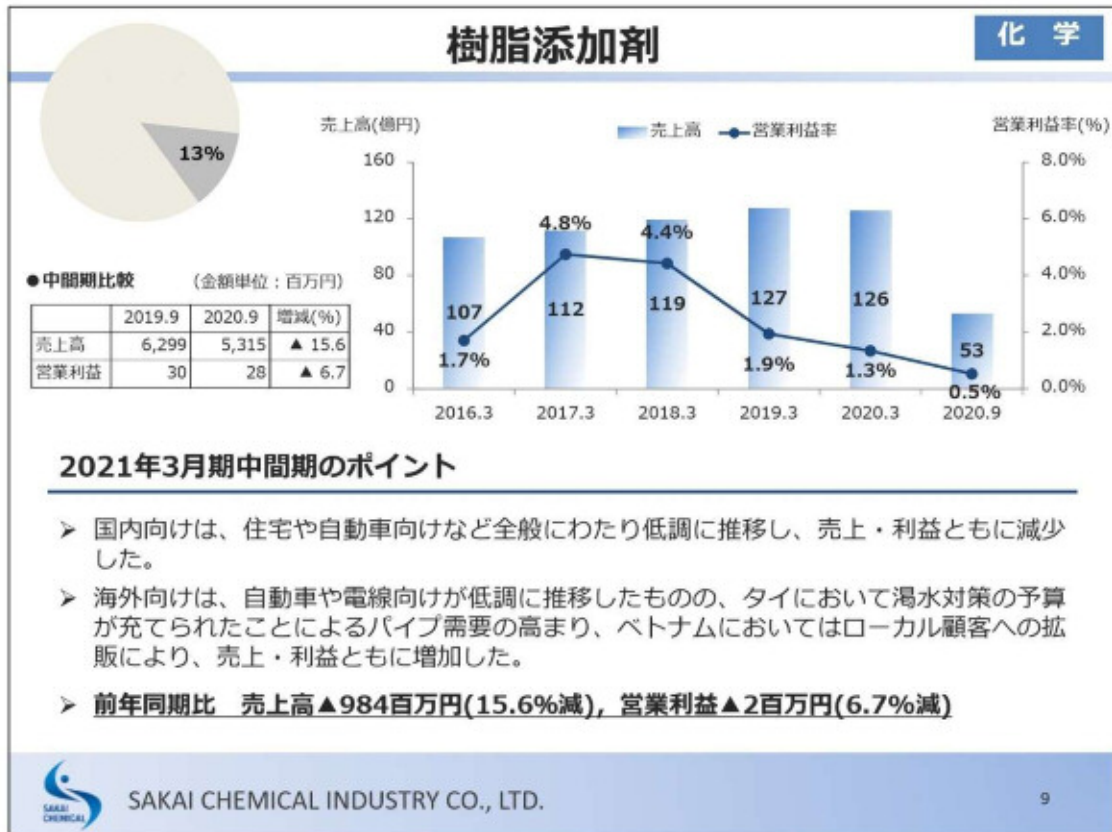
次に、酸化チタン・亜鉛製品でございます。

酸化チタンは、食品包装に使用されるグラビアインキ向けは堅調に推移いたしましたが、建材や繊維向けは低調に推移し、売上は減少いたしました。

亜鉛製品は、コロナ禍による自動車生産減により、タイヤ向け酸化亜鉛が減少するとともに、亜鉛建値の下落も受けて、売上、利益とも減少いたしました。

化粧品材料の超微粒子酸化チタン・酸化亜鉛は、海外の都市封鎖や外出自粛、インバウンドの落ち込み等により化粧品や日焼け止めの需要が落ち込み、売上、利益ともに減少いたしました。

前年同期比では、売上高は14億1,200万の減収、営業利益は1億円の増益となっております。ただし、先ほどご説明申し上げましたとおり、操業休止費用3億2,500万を営業外に計上してある状況でございます。実態としては2億2,500万円の減益となっております。

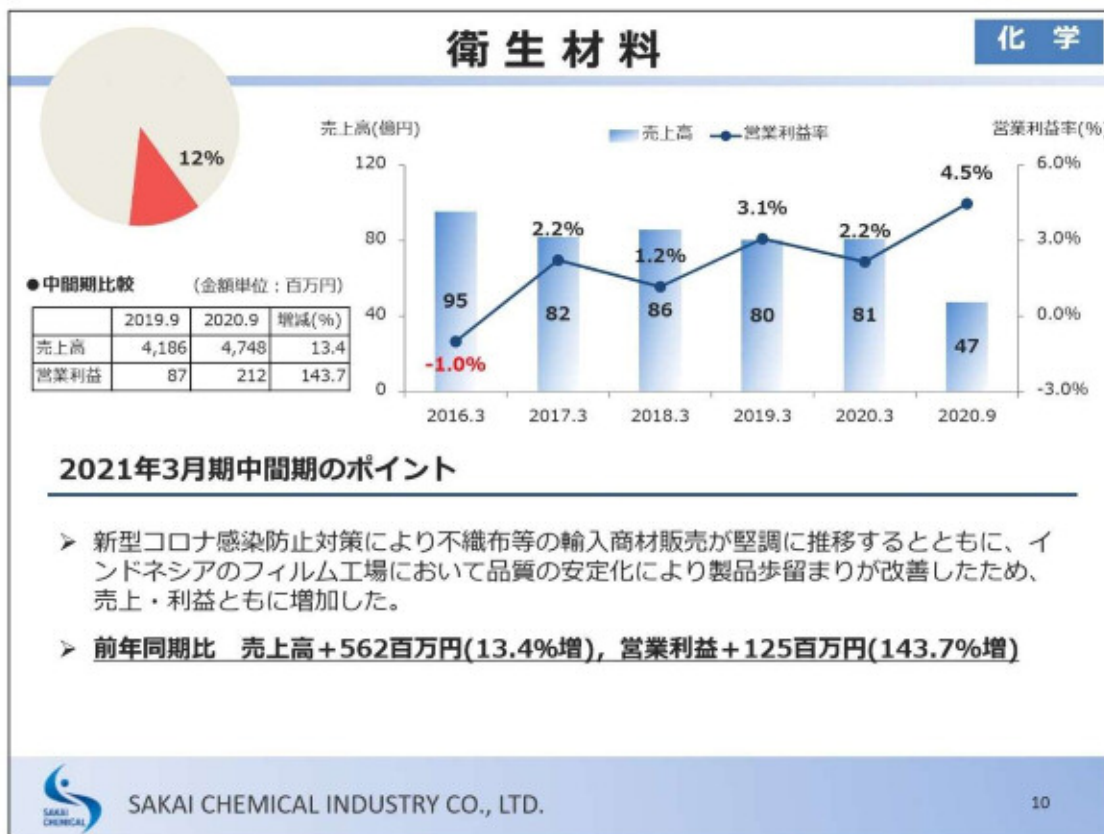


次に、樹脂添加剤でございます。

国内向けは、住宅や自動車向けなど、全般にわたり低調に推移いたしました。売上、利益ともに減少いたしました。

海外向けは、タイ、ベトナムに現地法人を設置しておりますが、自動車や電線向けが低調に推移したものの、タイにおいては洪水対策に国家予算が充てられたことによるパイプ需要の高まり、ベトナムにおいてはローカル顧客への拡販により、売上、利益ともに増加いたしました。

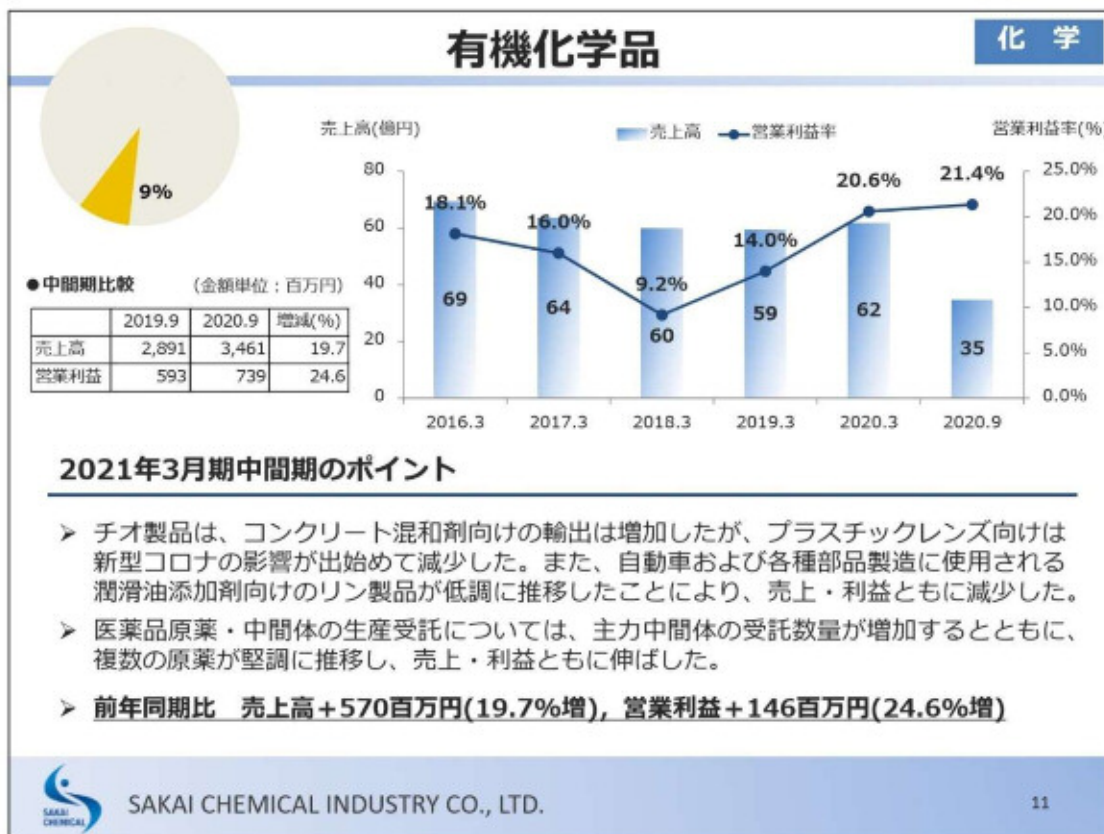
前年同期比では、売上高は9億8,400万の減収、営業利益も200万の減益となっております。



次に、衛生材料でございます。

新型コロナウイルス感染防止対策により、不織布等の輸入商材販売が堅調に推移するとともに、インドネシアのフィルム工場において、品質の安定化による製品歩留まりが改善したために、売上、利益ともに増加いたしました。

前年同期比では、売上高は5億6,200万の増収、営業利益も1億2,500万の増益と大幅に増加しております。

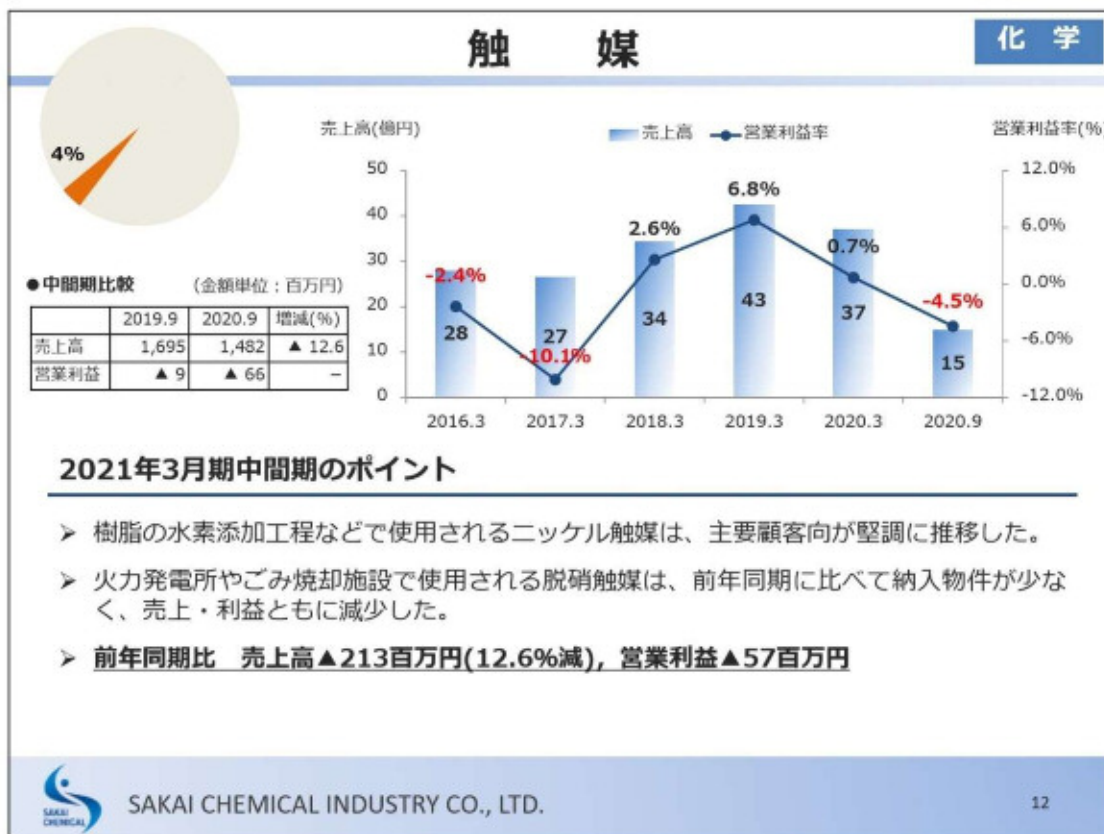


次に、有機化学品でございます。

チオ製品はコンクリート混和剤向けの輸出は増加いたしました。また、プラスチックレンズ向けは新型コロナウイルスの影響が出始めて減少いたしました。また、自動車および各種部品製造に使用される潤滑油添加剤向けのリン製品が低調に推移したことにより、売上、利益とも減少いたしました。

一方、医薬品原薬・中間体の製造受託につきましては、主力中間体の受託数量が増加するとともに、複数の原薬が堅調に推移し、売上、利益ともに伸ばしました。

前年同期比では、売上高は5億7,000万円の増収、営業利益も1億4,600万の増益となっております。

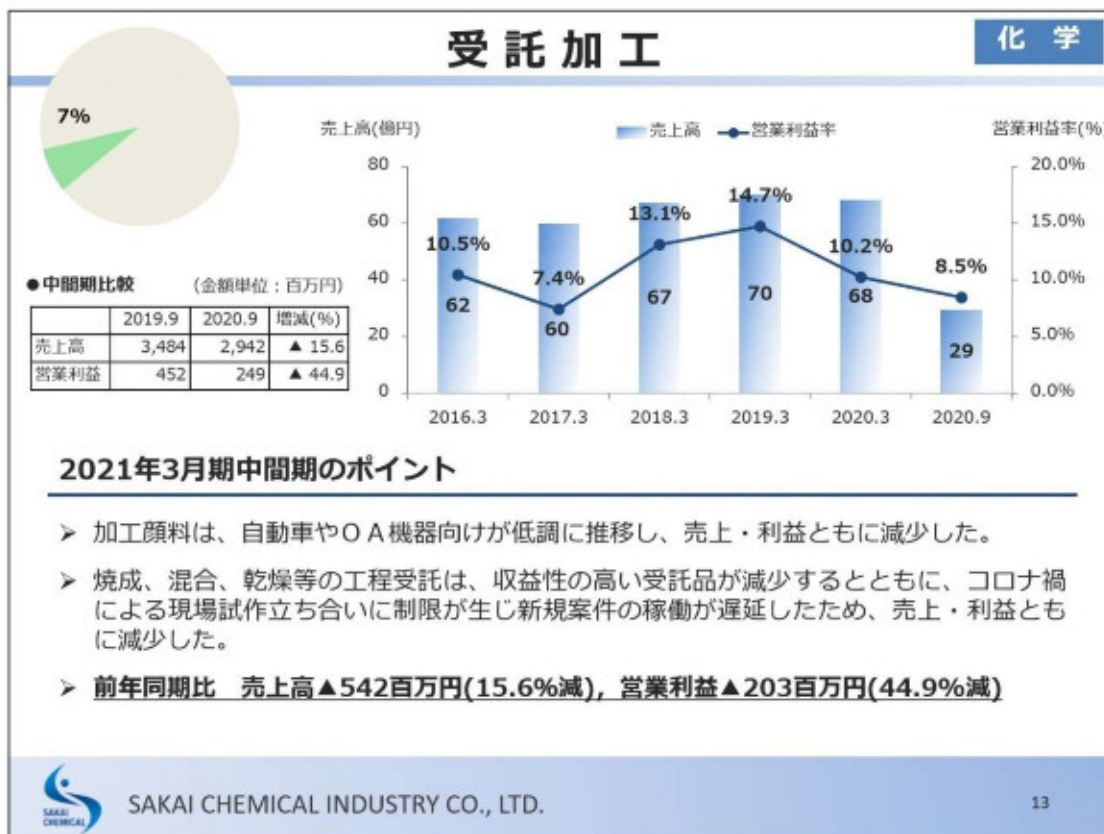


次に、触媒でございます。

樹脂の水素添加工程などで使用されるニッケル触媒は、主要顧客向けが堅調に推移いたしました。

火力発電所やごみ焼却施設で使用される脱硝触媒は、前年同期に比べて納入物件が少なく、売上、利益ともに減少しました。

前年同期比では、売上高 2 億 1,300 万円の減収、営業利益も 5,700 万の減益となっております。



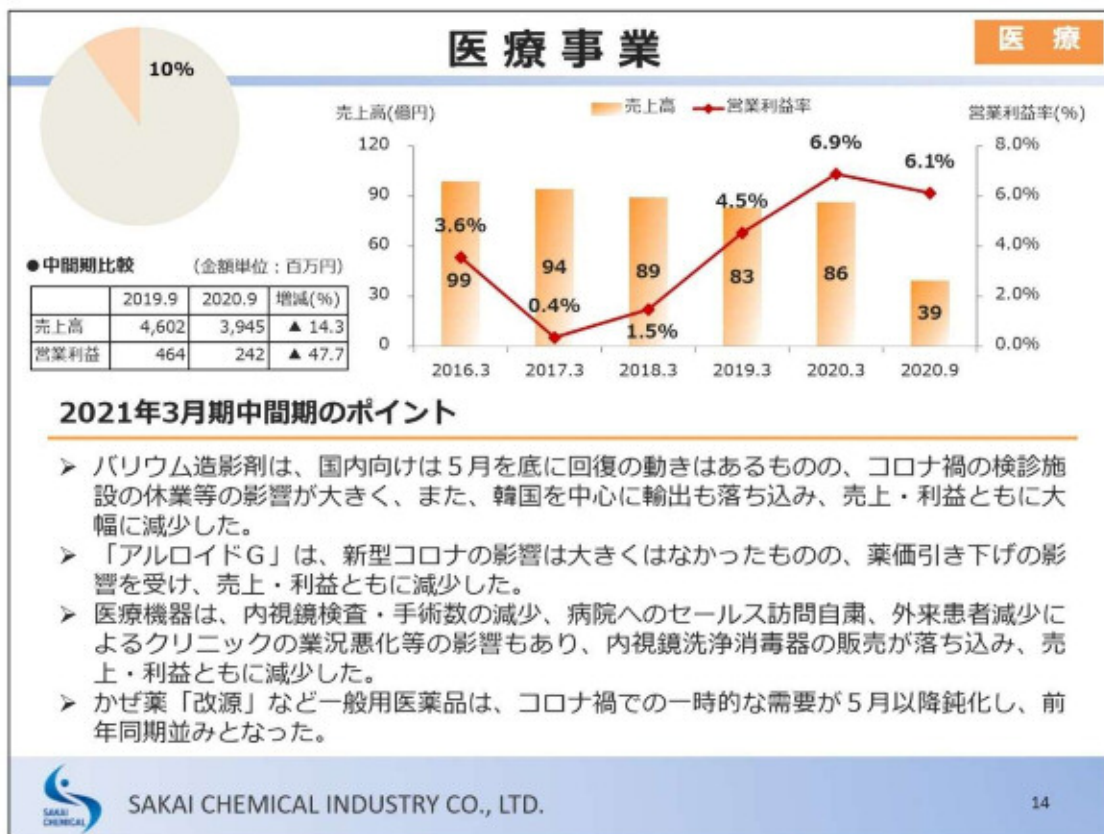
受託加工でございます。

加工顔料は、自動車やOA機器向けが低調に推移し、売上、利益ともに減少いたしました。

焼成、混合、乾燥等の工程受託は、収益性の高い受託品が減少するとともに、コロナ禍による現場試作立ち合いに制限が生じ、新規案件の稼働が遅延したために、売上、利益とも減少いたしました。

前年同期比では、売上高5億4,200万円の減収、営業利益も2億300万円の減益となっております。

以上が化学部門の業績でございます。



次に、医療部門でございます。

バリウム造影剤は、国内向けは5月を底に回復の動きはあるものの、コロナ禍の検診施設の休業等の影響が大きく、また、韓国を中心に輸出も落ち込み、売上、利益ともに大幅に減少いたしました。

アルロイドGは、新型コロナの影響は大きくはなかったものの、薬価引き下げの影響を受け、売上、利益ともに減少しております。

医療機器は、内視鏡検査、手術数の減少、病院へのセールス訪問の自粛、外来患者減少によるクリニックの業況悪化等の影響もあり、内視鏡洗浄消毒器の販売が落ち込み、売上、利益ともに減少しております。

かぜ薬、改源など一般用医薬品は、コロナ禍での一時的な需要が5月以降鈍化し、前年同期並みになっております。

繰り返しになりますが、前年同期比では、売上は6億5,700万の減収、営業利益も2億2,100万の減益となっております。

キャッシュ・フロー

金額単位：百万円

	2020.3 2Q	2021.3 2Q	増 減
期首の現金残高	11,175	9,148	▲ 2,026
税金等調整前当期純利益	1,853	1,286	▲ 567
減価償却費	1,783	2,024	240
その他	▲ 434	873	1,307
営業活動によるキャッシュ・フロー（営業CF）	3,202	4,183	980
設備の支払額	▲ 4,284	▲ 5,118	▲ 833
その他	73	236	163
投資活動によるキャッシュ・フロー（投資CF）	▲ 4,211	▲ 4,882	▲ 671
財務活動によるキャッシュ・フロー（財務CF）	600	1,836	1,235
期末の現金残高	10,741	10,248	▲ 492

◆ 営業CF

純利益は減少したものの、売掛金の減少、棚卸資産の圧縮により、増加した。

◆ 投資CF

電子材料および化粧品材料などの設備増強を行い、支出が増加した。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

15

次に、キャッシュ・フローの状況でございます。

営業キャッシュ・フローでございますが、純利益は減少したものの、売掛金の減少、棚卸資産の圧縮により増加しております。棚卸資産につきましては、その他の8億7,300万のプラスの中に含まれます。

次に、投資キャッシュ・フローでございますが、電子材料および化粧品材料などの設備増強を行い、支出が増加しております。設備の支払額としては51億1,800万、前年同期に比べまして、8億3,300万の支出増という結果になってございます。

これを財務活動によるキャッシュ・フロー、18億3,600万で補いまして、結果、期末の現金残高は4億9,200万のマイナスというマイナス幅にとどめております。

私からは以上でございます。

司会：ありがとうございました。では、続きまして矢部社長、お願いいたします。

2021年3月期業績予想

金額単位：百万円

	2020.3		2021.3					
	通期実績		上期実績		下期予想		通期予想	
		売上高比		売上高比		売上高比		売上高比
売上高	87,177	100.0%	40,244	100.0%	40,656	100.0%	80,900	100.0%
営業利益	4,015	4.6%	1,597	4.0%	▲ 197	▲ 0.5%	1,400	1.7%
経常利益	4,208	4.8%	1,219	3.0%	▲ 319	▲ 0.8%	900	1.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,535	2.9%	558	1.4%	842	2.1%	1,400	1.7%

- ◆ 化学事業は、有機化学品、衛生材料が堅調を維持し、自動車向けの製品で回復の兆しがあるものの、化粧品材料を中心に厳しい状況が続く。バリウム検診を中心に上期大きく落ち込んだ医療事業を含め、下期に全事業で2Qまでの落ち込みをカバーするのは難しい状況である。
- ◆ 下期は、棚卸資産圧縮に伴う減産により単位当たりの固定費が増加（約6億円）するとともに、減価償却費も増大（約2億円）する。
- ◆ 3Qに操業休止費用発生予定。
- ◆ 政策保有株式の売却を進める（2Qまでで11銘柄売却）。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

17

矢部：社長の矢部です。よろしくお願いいたします。

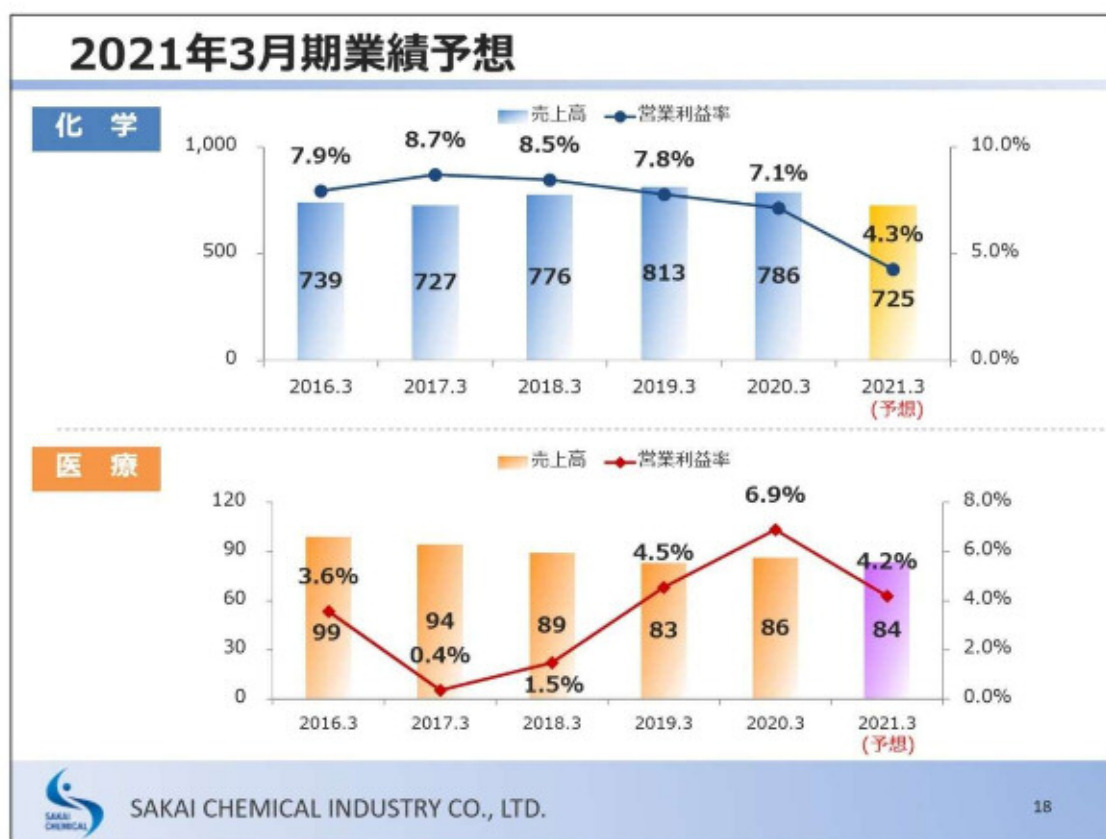
それでは、2021年3月期の業績予想につきまして、私からご説明いたします。今、中西からご説明しましたとおり、外出自粛、経済活動の停滞に伴いまして、上期実績は当社グループにおいても多くの製品で需要が減少し、2021年3月期第2クォーターの業績は、前年同期比で売上高が8.5%減、営業利益が13.6%減と、減収減益の結果となりました。

今期の業績予想については、今のところ11月9日に開示いたしました決算短信に記載のとおり、売上高809億円、営業利益14億円、経常利益9億円、親会社株主に帰属する当期純利益14億円と大幅な減収減益を予想しております。

この下期は、化学事業においては、有機化学品、衛生材料はほとんどコロナ禍の影響がなく、堅調を維持し、足元、自動車向けの製品で回復の兆しが出てきているものの、化粧品材料を中心に厳しい状況が続くと見込んでおります。上期にバリウム検診を中心に大きく落ち込みました医療事業については、上期後半から巻き返しを図っておりますけれども、上期の落ち込みをカバーするのは難しい状況であると見ております。

堺化学本体を中心に、上期から棚卸資産の圧縮に努めてまいりました。下期はさらなる圧縮を進めており、2020年3月末と比較して20億程度削減する予定です。従いまして、減産を行いますので、操業度差で上期比約6億円の原価アップとなると見ております。しかし、今後、筋肉体質への回復に注力し、本格的な反転に備えたいと考えております。また、戦略投資につきましては進めてきましたので、減価償却費も上期比約2億円程度増える見込みでございます。2クォーターまで、酸化チタン事業を中心に、営業外費用として操業休止費用4億4,200万円を計上しておりますが、下期も販売状況いかによりましては、操業を休止する可能性もございます。

財務の健全性確保の取り組みとして、先ほど述べました棚卸資産の圧縮のほかにも、保有資産の見直しを行っておりまして、政策保有株式の売却を進めております。この中間決算では、株式市場の回復に伴いまして、BS上の投資有価証券額は増加しておりますが、11銘柄をすでに売却しています。最終的には、有価証券報告書に増減を記載いたしますので、そちらをご覧くださいと存じます。



これは化学事業および医療事業の推移でございます。比較しますと、化学事業の落ち込みがかなり大きくなっております。

設備投資を行っている注力事業の見通し

2020年3月期中間決算説明会公表の 誘電体材料および化粧品材料の販売数量計画との差異

※数字は、2016年3月期の販売数量を
100とした場合の指数

■ 誘電体材料

青色：昨年の中間決算説明会公表時の数字
黒色：現時点の見込み数字



今期は前期より回復するものの、昨年公表数値から約1年遅れ、5カ年計画策定時より3年程度の遅れが生じる見込み。

■ 化粧品材料

赤色：昨年の中間決算説明会公表時の数字
黒色：現時点の見込み数字



国内外の新型コロナウイルスの感染状況によるが、マスク着用の常態化などもあり、需要回復に3年程度要すると予想。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

19

次に、誘電体材料（高純度炭酸バリウム）および化粧品材料については、約1年前の説明会で設備増強の説明をしております。工事はほぼ計画どおり進めているものの、販売見込みについては変更が生じているため、少しご説明をいたします。

まず、左側の誘電体材料ですが、棒グラフが設備能力で、折れ線グラフが販売の推移でございます。点線と予想と書いていますが、今回見直ししたものでございます。2020年3月期は米中貿易摩擦の影響等を受けまして、販売が落ち込みました。指数でいいますと、前年167から152に落ち込んでおります。

今年の上期につきましては、5G関係向けなどは堅調で全体的には微増程度で推移してはおりますが、直近の見込みでは2019年3月期以上の出荷となると見ております。指数でいいますと、昨年152から179まで回復すると見込んでおります。

過去のトレンドから、当社の電子材料分野の出荷業績につきましては、川下企業の業績から、2から3クォーターぐらい遅れるものと見ております。しかし、一部の製品では、在庫の確保と思われるところもありますが、11月に入り急回復のフォーキャストが出てまいりました。それを加味しまして、現在179ぐらい指数になるのではないかと見込んでおります。

ただし、それでも当初の1年前の数字が196ですので、それに比べますとまだ下回っておりまして、中期経営計画策定時と比較しますと、そのスライドには3年程度と書いておりますけども、1～2年、少なくとも1年以上は遅くなるのではないかと予測しております。

次に、右側の化粧品材料でございますが、これも棒グラフが設備能力で、折れ線グラフが出荷見込みでございます。ご存じのとおり、日焼け止めや化粧品向けに近年大きく伸ばしてきており、また有機吸収剤の規制等で無機材料の需要が逼迫すると考えまして、顧客からも設備増強の要請を受けて設備増強に踏み切りました。

しかし、新型コロナ感染拡大を受けまして、海外都市の封鎖や外出自粛により、化粧や日焼け止めを塗る機会が減少し、現在需要が落ち込んでおります。国内外の新型コロナ感染状況にもよりますが、マスクの着用の常態化、日本国内インバウンド需要の回復目途の不透明性などあり、需要回復につきましては、少し時間を要すると予測しております。



次に、今年の5月に開催いたしました決算説明会で、設備投資と減価償却費の見込みを開示していましたが、一部設備の納期後ろ倒しや計画の見直しなどがございまして、次のとおり、変更になる見込みです。上が前回公表の表ですけども、5年トータルで設備投資額は約40億円マイナスとなる見込みでございます。

株主還元

■ 総還元性向推移



剰余金の配当につきまして当社は、株主の皆様への安定した利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を図るとともに利益動向や経営環境を勘案し、年2回の配当を実施することを基本方針としています。

中期経営計画『SAKAI INNOVATION 2023』では、総還元性向30%以上を目標として取り組んでいます。

2021年3月期については、中間15円、期末15円の年間30円で実施する予定です。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

21

次に、株主還元につきまして、中期経営計画では総還元性向 30%以上を目標として取り組んできています。2021年3月期については、減配で誠に申し訳ないですが、中間15円、期末15円の年間30円で実施する予定でございます。

最後に、新型コロナは依然として終息の目途が立っておらず、先行き不透明な状況がしばらく続くものと予測しておりますが、ウィズコロナ、アフターコロナの時代、また地球環境との共生など、ESGが強く意識される中で、社会のニーズに合ったいくつかの高機能材料の提供にも現在、鋭意取り組んでおります。売上規模は決して大きくないものですが、次の成長の糧にしたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

ご静聴ありがとうございました。

質疑応答

司会：ありがとうございました。それでは、これより質疑応に移ります。

質問者 1：大きく 2 点お伺いしたいのですが。

まずスライド 17 の下期の業績の見方に関してお伺いしたいのですが、なぜ下期 2 億の赤字という見方になっているのでしょうか？その前段として、まず棚卸資産の圧縮は下期も実施するというお話ですけれども、どの製品の在庫を減らすかのでしょうか？あと、操業休止費用ですけれども、これも下期も 4 億ぐらい出るのでしょうか？これがすでに今の業績予想に入っているのかどうか、まず最初にそれを確認させてください。

矢部：操業の調整につきましては、小名浜事業所でやっています酸化チタン、バリウム製品が中心になります。

質問者 1：これはもう業績予想には入っているという理解でよろしいですか？

矢部：はい。操業調整による固定費分が約 6 億円。これは折り込み済みでございます。

質問者 1：下期は 6 億ですか？

矢部：はい。上期の実績は 4 億 5,000 万ですね。

質問者 1：それが下期に 6 億出るということですか？つまりそれは、営業利益はかさ上げ要因になるという、そういう理解でよろしいですね。

矢部：下期の分は営業利益の中に織り込んでいます。上期は営業外に出しています。

質問者 1：では、下期は営業損益のところに入っている、そういう理解でよろしいですね？

矢部：はい。

質問者 1：分かりました。棚卸で減らされるのが、酸化チタンとバリウム製品ということよろしいですね？

矢部：はい。

質問者 1：分かりました。その上で、上期対下期。上期が 16 億の営業利益で、下期が 2 億の赤字ということなので、18 億減るということになります。その理由として書いてありますのは、棚卸資産圧縮に伴う減産による固定費増加 6 億円、操業休止費用 6 億円ということですかね。あと、減

価償却費の増加が2億円、これは上下の減益要因になるのでしょうか？その辺のご解説をお願いいたします。

矢部：もう一度整理して申し上げますと、上期は休止工場費用4億5,000万が発生したのですが、それを営業外で処理しています。下期は約6億円、操業停止のために固定費が上がると見ておりまして、それは営業利益の中に入っておりますので、そこでもう10億5,000万の差が出ています。さらに減価償却2億円が上期から下にかけて増えます。

あと、関係会社の業績で、片山製薬所という医薬中間体を作っているところですね。これはどちらかという、今年度に限りましては上期型でございまして、上下で2億5,000万ほどマイナスになります。あと、カイゲンファーマも上期よりは下期のほうが1億強ぐらい悪くなると見込んでおります。

質問者1：なるほど。そうですね。4億5,000万と6億の入り繰りのところが、たぶん10億5,000万も出ないような気がします。6億で良いのではないかと思うのですが。あと、例えば、高純度炭酸バリウムなど伸びてくるのもあると思いますけど。その辺の効果を考えても、下期赤字というのは現実味であるご予想という理解でよろしいですか？

矢部：そうですね。11月に決算発表したときに比べて、高純度炭酸バリウムは上振れしています。ただし、化粧品材料については、やはりその当時の見込みよりまだ下振れしており、ほぼ相殺されるのではないかと考えています。

質問者1：じゃあ、実際赤字は結構蓋然性のあるというか、リアリスティックな見方だということですか？

矢部：ただし、全体的に当初考えていたよりは回復してきておりますので、それがどこまで回復するかによりまして、操業停止にかなり影響出てくると思います。ちょっとはっきりしたことを今申し上げにくい状態です。

質問者1：分かりました。二つ目の質問が、スライド19の誘電体材料のところをお伺いしたいのですが、去年152で今年179の指数とありますが、それ以外の誘電体そのもの、あとその他というものもあると思いますので、この辺が今年の上期どれぐらいで、通期どれぐらいになりそうか、あと来期以降の見方も教えてください。

矢部：全体で申し上げますと、2019年3月期で売上高90億ぐらい、昨年度が85億ぐらいです。今年度は92~93億ぐらいにはなるのではないかと考えています。

質問者 1：前年比で7~8%ぐらいの伸びかと思うのですが、そうすると誘電体とかその他というのは、今年は前年比でいうとマイナスになりますか？

矢部：そういうふうに見ておりましたけども、これも足元で回復基調に来ておりますので、ほぼ同等ぐらいではないかなと思いますね。

質問者 1：なるほど。あと、来年度以降はどれぐらいになりそうですか？

矢部：来年度以降は、全体で指数で言いますけども、昨年度を100としますと、120ぐらいにはなるのではないかと期待しています。

質問者 1：はい。そうすると、この誘電体材料はたぶん2割ぐらいの伸びかと思うので、それ以外に誘電体そのものやその他に関しても2割ぐらいは伸びてくるのではないかと、そういうことですか？

矢部：そうですね。

質問者 1：なるほど。最後に、この誘電体材料に関しては、もともと来期268と見ている中、217ということで、これかなりギャップとしては大きいと思います。しかも、今年よりも来期のほうがギャップが大きくなっていくというところが、遅れということではなくて、何かほかの要因が根本的にあるのではないかと感じてしまうのですが、その辺に関してはいかがですか？

矢部：これはやはり、私どものお客様のところで多少のダブリとかもあったのかなと分析しています。私どもは広範囲にお付き合いしていますが、最終的にどうしても同じ市場にいきますので、各社からフォーキャストに基づいて計画を立てていく中で多少のダブリがあったのかなと考えています。

質問者 1：来期の217というのは、もうこれはある程度、顧客からフォーキャストが来ている上での数字という理解でよろしいですか？

矢部：そうですね。はい。

質問者 1：なるほど。分かりました。どうもありがとうございます。

司会：ありがとうございました。では、次の方ご質問どうぞお話しください。

質問者 2：質問1点、11月ぐらいから急に需要が回復してきているとおっしゃったところについてです。例年2~3クォーター遅れぐらいで川下の回復から通常遅延があるというお話だったのですが、今回先行して回復していらっしゃるというご認識でしょうか？今、お客さん側での在庫の補

填等が出てきているのかなと推察していますが、この辺りの過去との違いをどういうふうに認識しているのか教えてください。

矢部： こういう大きなショックというのは初めてなので、なかなか難しい推測ですが、一つはやはり、お客様のほうでもかなり在庫を絞っていたのではないかなと推察しています。それがやはり市場回復に伴いまして、在庫の確保ということも含めて、急に増え出したのではないかと見ております。

質問者 2： お客様の生産がロックダウンしたとか、そういった生産自体が止まったということは関係しているのでしょうか？

矢部： 私どもの直接のお客様でそういうロックダウンは聞いておりませんので、そういうことはないと思っています。

質問者 2： はい。誘電体のほうは今どうなっていますでしょうか。

矢部： 誘電体のほうも自動車関係がかなり悪かったのですけれども、少し動きが回復してきているというような状況です。

質問者 2： 誘電体材料ほどシャープにこの秋口に動いているわけではないということですか？

矢部： そうですね。そこまでは回復しておりません。

質問者 2： 回復が始まったのは誘電体のほうはいつからでしょうか？

矢部： もう本当に最近ですね。

質問者 2： 10月、11月ぐらいと。

矢部： そうですね。はい。

質問者 2： はい。分かりました。ありがとうございました。

司会： はい。ありがとうございました。では、Q&A欄でご質問いただいている内容を読み上げます。化粧品材料の生産能力に関して、予測が正しいのであれば、供給と需要の大きな乖離が発生しそうです。それで、値崩れの恐れにつながると考えています。御社は今後の需給についてどのような見解をお持ちでしょうか？設備投資計画をさらに調整すべきではないでしょうか？とご質問をいただいております。

矢部： いろいろなお客様に合わせた表面処理等をしておりますので、需要が落ちて供給が余っているといたしましても、材料的に右から左に置き換えられるようなものでなく、そう簡単に変えられる

ようなものでもないと思っております。ただし、新しく増設した設備をまともに動かすかどうかは非常に厳しい状況になっておりますので、その操業についてはこれからどういうふうに行っていくのが一番いいのかを検討しているところでございます。

司会：はい。ありがとうございました。先ほどは、書き込みのご質問に対してご回答申し上げました。このほか、まだお時間は少々ありますけれども、ご質問等はございませんでしょうか？

矢部：先ほどの回答について、P.19のグラフのズレですけれども、一つはやはり自動車の伸びをもっと大きく供給先で見ていたということもあると思います。それが蓋を開けてみると、今のところそんなに大きく伸びていない状況になっていますが、今後、自動車についてはEV化だとか自動運転等で需要がかなり増えるのではないかと期待しております。

司会：それでは、ほかにご質問がないようですので、この質疑応答の時間を終了とさせていただきます。以上で堺化学工業株式会社の中間決算説明会を終了させていただきます。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

矢部：ありがとうございました。

司会：本日はこれにて失礼いたします。

[了]

脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。